

都市再生整備計画 事後評価シート

村井駅周辺地区

令和5年3月
長野県 松本市

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	ナガノケン 長野県		町町村名	マツモトシ 松本市		地区名	ムライエキ ショウヘダク 村井駅周辺地区(都市再構築戦略事業)			面積	65ha		
交付期間	平成29年度～令和3年度		事後評価実施時期	令和4年度		交付対象事業費	645.6百万円	国費率	50%				
1)事業の実施状況	当初計画に 位置づけ、 実施した事業	基幹事業	事業名 ○道路【自由通路・駅前広場(東口)・駅前広場(西口)・市道5226号線・市道5684号線】 ○誘致施設・教育文化施設【創造学園高等学校(北校舎棟)】										
		提案事業	なし										
	当初計画から 削除した事業	基幹事業	事業名 西口アクセス道路①(市道5227号線)				削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		提案事業								なし			
	新たに追加し た事業	基幹事業	道路【市道5484号線】 地域生活基盤施設【自転車駐車場(東口)・自転車駐車場(西口)】							なし			
		提案事業											
	交付期間 の変更	当 初 変 更	平成29年度～平成33年度 なし		交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響								
2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
					基準年度		目標年度	モニタリング	評価値				
	指標1	公共交通の利用者数	人/日	3,552	H27	3,724	R3		3,692	×	あり ●	目標の達成にはならなかったが、村井駅の利用者数は新型コロナウイルスの影響によって一時期減少に転じたものの、その後は増加傾向にあり、高等学校の開校などによる効果を挙げている。	R5.7頃
	指標2												
	指標3												
	指標4												
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
					基準年度		目標年度	モニタリング	評価値				
	その他の数値指標1	踏切横断歩行者数	人/日	489	H28	従前値より減少			748	×	×	駅の東西をつなぐ自由通路の工事が遅れにより未完成であったことから、踏切横断歩行者を減少させる効果はみられなかった。	
	その他の数値指標2	公共交通施策に関する市民満足度	%	55.9	H28	従前値より増加			37.6	×	×	駅舎、駅前広場が工事の遅れにより未完成であることから、公共交通施策に関する地域住民の満足度を高める結果が得られなかった。	
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果 発現状況													
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング						都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加 プロセス		○地元町会単位の検討部会により、駅のあり方や地区のまちづくりに関する課題や解決策の検討を進めている。 ○駅舎デザインアンケートを駅利用者及び周辺住民を対象に実施。 ○半橋上駅舎内1F、2Fにある公共スペースの利活用方法について、主に駅利用者、周辺町会、周辺学校の学生を対象に実施。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				○		
	持続的なまちづくり 体制の構築		○整備計画の策定以前より、村井駅周辺整備についての勉強会を開催 ○地元町会単位の検討部会での検討 ○平成30年に「村井駅整備推進協議会」の設立				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				○	「村井駅整備推進協議会」を中心に、村井駅周辺地区のまちづくり活動を継続していく。	

様式2-2 地区の概要

都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
・駅改良及び交通広場整備による公共交通の利用促進 ・都市機能誘導区域の設定及び既存施設や民間等の開発を活かした基盤整備による安全で利便性の高い生活空間の創出		公共交通の利用者数	人/日	3,552	H28	3,724	R3	3,692	R3

まちの課題の変化	・駅周辺整備が進行中であり、駅を中心とした生活の拠点形成と交通ネットワーク化が図られつつある。 ・自由通路設置、駅前広場整備の工事が遅れており、引き続き、駅の利便性向上が求められています。 ・民間等の開発により、駅利用者や歩行者が増加しており、安全な歩行空間の構築が求められています。 ・駅のバリアフリー化(移動の円滑化)を、引き続き、進めていく必要があります。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	○村井駅を中心としたまちづくりを進めていく。 ・関係機関と連携し、自由通路・駅舎等の整備を促進する。 ・安全で安心して歩ける歩行空間を確保する。